

第5回 ポスト・コロナの市民連帯を展望する研究会

日時：2021年 11月 20日（土）
13時 30分～16時
場所：生活クラブ オルタナティブ生活館
（新横浜駅下車徒歩13分）



講演：池田 誠司 さん 社会福祉法人
横浜市社会福祉協議会 地域活動部長

※オンライン併用

<講演テーマ>

コロナ禍で横浜市社会福祉協議会が取り組んだ生活困窮者支援と 地域共生に向けた取組み

戦後の混乱が続く昭和26年 社会福祉協議会は生まれた。その翌年には任意団体である地区社協も設立され、地域の自治組織・福祉組織としての歩みがスタートした。

社会情勢が大きく変化し地域のつながりが希薄化する中、また、コロナ禍により生活様式が変化する中での横浜市の社会福祉協議会の活動についてお話いただく。

横浜市の地域福祉には大きな特徴がある。①連合町内会単位で地区社協が組織されていること、②地域福祉保健計画が連合町内会単位で策定されていること、③日常生活圏域(中学校区程度)に地域ケアプラザがあること等が挙げられる。

これらの特徴を活かしつつ、今後求められる「地域共生社会」の実現に向けて、何が必要か、何が出来るかについて、社会福祉協議会の現在の取り組みについてお話いただき、研究会参加者の皆さんと意見交換を行いたい。

プロフィール

プロフィール(主なもの)

昭和62年 4月	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会入職	総務部企画振興課
平成4年 2月	横浜市並木地域ケアプラザ	地域活動交流コーディネーター
平成13年 2月	横浜市寺尾地域ケアプラザ	所長
平成24年 4月	横浜市社会福祉協議会	経営改革室担当課長
平成26年 4月	横浜市港北区社会福祉協議会	事務局長
平成30年 4月	横浜市社会福祉協議会	地域活動部地域福祉課担当課長
平成31年 4月	横浜市社会福祉協議会	地域活動部長 現在に至る

11月20日研究会 オンライン参加募集

【連絡先】公益財団法人かながわ生き生き市民基金

先着50名

下記アドレスに氏名、所属等、メールアドレスを送ってください。

Mail : info@lively-citizens-fund.org

研究会の開催目的・・・呼びかけ文から

一年前を振り返ると、コロナ情報がテレビ・新聞・ネットニュースから一方的に流され、感染リスクが高い仕事、医師や看護師など医療現場で働いている人や家族に対する社会的忌避（子どもを保育園に預けられなくなる等）が起こりました。隣の人のことを気にすること、地域で何が起きているか、議論することが殆ど無くなりました。ヨコの関係は分断され、「公共空間」が衰退し、権力（行政・政治）が剥き出しになって社会をコントロールし始めました。「不要不急」が上から決められることに抗しがたいムードがつけられ、感染すること自体が罪悪視される風潮が強まりました。コロナ禍が市民社会に与えた影響の一番は、公共空間・言論空間の弱体化だと、私は考えます。それは民主主義の後退であり、1年経った今も続いていると言わねばなりません。

しかし一方で、コロナ禍にあっても、課題解決に取り組む市民団体が増えています。食の分かち合い運動（フードバンクやフードパントリー）、子どもの教育への地域的取組み（無料学習支援）、社会的孤立への支援（ひきこもり支援・DV被害者支援）など、制度的な解決が及んでいない課題解決に多くの団体がチャレンジしています。これらの活動は市民社会のこれからとて大いなる希望です。

中間支援組織はこれら活動の現場をエンパワメントする役割を担っています。ポスト・コロナの時代、県内の中間支援組織は、どのような役割・機能を発揮できるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

= 今後の開催予定 =

第 6 回

- ◆ 日 時：2022年2月5日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館 5Fまなびや
- ◆ 講 師：手塚 明美さん（一般社団法人ソーシャルコーディネーターかながわ理事長）

第 7 回

- ◆ 日 時：2022年2月26日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館 5Fまなびや
- ◆ 講 師：鳴海 美和子さん（ワーカーズコープセンター事業団
神奈川事業本部副本部長）

第 8 回

- ◆ 日 時：2022年3月12日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館 5Fまなびや
- ◆ 講 師：田中 夏子さん（イタリア協同組合研究者/農業者）